

うつくしま ふくしま

「うつくしま ふくしま」とは福島県のキャッチフレーズです。

【2011年3月11日 東日本大震災】

大変な被害があり、多くの尊い命が奪われました。地震が発生した津波が建築物をいとも簡単に流しました。世界中のメディアが注目し、日本は地震大国の名を世界的に轟かせました。そして次は原子力発電所の事故で放射線が問題になり福島県は一躍有名になりました。私は福島県福島市出身です。こんなことで有名になってほしくありませんでした。放射線の影響で風評被害が相次ぎ、農業や漁業を営む人々が生活に苦しみ、ついには自殺してしまう人もでてしまいました。

「放射線が心配だから帰って来ないで。」と母に言われていましたが、どうしても帰りたくてゴ―

ルデンウィークに3日間帰省しました。私が実家にいる間、毎日地震がありました。震度は1〜3度の小さな揺れですが私はそのたびにビクビクしていました。今では母はもう慣れてしまったらしく「揺れたね」と、のんびりした口調で私に言います。以前は地震があると誰よりも早くテーブルの下に隠れる母のその行動の素早さに半ば呆れていましたが、今は隠れることすらもしいのです。私が帰省する前はテーブルの下に布団を敷き貴重品と懐中電灯も傍に置いていつでも逃げられるように寝ていたらしいです。

テレビをつけると必ず就職や保険などの受付窓口の情報が番組と一緒に映りました。地域ごとの放射線量も表示されていました。横浜ではテレビをつけてもせいぜい地震速報くらいしか表示されなかったのでも驚きました。

外国語学部
英語英文学科3年

吉田 智世

6月頃、母が横浜に遊びに来てくれました。半袖でも良いくらい暑かったのに母は長袖長ズボンの格好でマスクをつけていました。会ってすぐの母の感想は、「なんでみんなマスクをつけないで肌



出してるの？大丈夫なの？」でした。この頃、福島では外出時にマスクをつけて極力肌を露出しないのが当たり前だったみたいです。



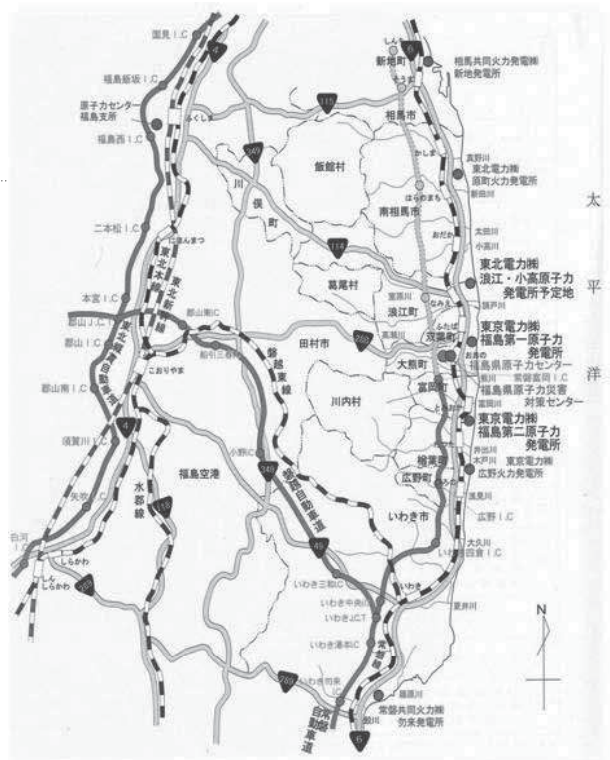
福島県

【原発事故】

福島市は原発から約70キロメートル離れていますが、避難区域以外の地域の中では放射線量は高いほうです。私が帰省した時は1・65シーベルトほどありました。これでもだいぶ下がったようです。事故発生当初の数値は20台だったと聞きました。詳しいことはよく分かりませんが、風向きの影響だろうと地元の人はずいぶん言っています。

原発事故後、原発に近い地域では外出時はマスクをつける、肌の露出を控える、洗濯物は外に干さない、子供を外で遊ばせないといったことがしばらく続きました。現在も外にいるのは短時間にしたり、放射線測量器を持ち歩いたりしています。学校の体育の授業もほとんど屋内に限られています。

ニュースで政治家の失言・失態が多く報道された際、『こんな時に何を考えているのだ、よくそんなことが出来るな』と思いました。福島に住む人々がどんな状況で生活しているのか本当に理解しているのかと疑いました。



原子力発電所立地

【風評被害】

この言葉は2011年の流行語にノミネートされるくらい話題になりました。以下に挙げることは私が地元で聞いた話です。

● だんだん交通の便が回復し復興へ活気づいた頃、福島からある一家が車でデイズニーランドに遊びに行った。駐車場に車を止め、楽しんだ後、車へ戻ると『帰れ』という文字を車に書かれ、生卵がぶつけられていた。

● 関東地方の飲食店やガソリンスタンドには『岩手・宮城・福島からお越しの方はご遠慮ください。』という張り紙があった。

●原発事故の後、福島県出身で当時妊娠中だった奥さんを福島に帰した夫がいる。

こういった事が実際あったようです。

『どうしてこういう酷いことをする人がいるのか？頑張りよう！』という言葉は嘘なのか、福島県民が何か悪いことをしたのか？』

知った時とても悲しかったです。

福島県民は『加害者』ではなく『被害者』ではないのですか？

「都会の人のために電気をつくって、問題が起ると私達に後始末を押し付ける」、「どうしてこんな目（風評被害）に遭わなければならないのか」と嘆く人々もいます。福島県は他県（東北）から電気を引いて使用しているので、事故のあった原子力発電所からの電気は使用していません。

夏休みに約1週間帰省し、母校を訪れてお世話になった先生方にお会いしました。先生方も後輩達も元気で笑顔だったので安心しました。当時のことを1人の先生から伺いました。

地震当時、学校は休みでしたが部活や勉強をしに生徒が来ていました。建物の中にいるのは危険だと判断し、全員集めて外へ避難すると今度は雪が降ってきました。幸いにも怪我人はいなく全員無事だったそうです。余震の恐ろしさと

雪の寒さでとても辛かった、と先生はおっしゃっていました。

また、「福島出身だと言って嫌な思いはしてないか？」と心配しておられました。

【八重洲の福島を訪れる】

東京駅の八重洲口から歩いて数分の所に「福島県八重洲観光交流館」という建物があります。ここでは福島の名産品が売られ、地元の新聞を読む



福島県八重洲観光交流館（2011年12月18日撮影）

ことや観光情報誌をもらえます。何度か店の前を通ったことはありましたが、中に入ってじっくり見るのは初めてでした。幼い頃から身近にあったものに見て触れて懐かしく感じたり、初めて見る物があつて新鮮な気持ちになったりしました。スタッフの方々は福島弁で接客していたので地元に戻ったような、そんな気持ちでした。私が店内にいる間、お客さんの数が絶えませんでした。震災後の様子をスタッフの方から話を伺うと、出身が福島だという方やそうでない方が店に大勢来て募金をして下さったり商品を買って下さったりしたそうです。「ここには福島を応援して下さい方しかいないの。」と嬉しそうに話しておられました。風評被害の悲しい話しか知らなかったため、それを聞いて安心しました。

【今後】

私達の生活はとても便利になりました。電気もある、水もある、ガスもある。けれどそれらには限度があります。無限ではなく、有限です。これまで『当たり前』だった生活が、大地震のあった日から変わりました。関東では電車が停まり帰宅難民と呼ばれる人々で溢れかえり、携帯電話が通じにくくなりました。『当たり前』なんて存在しないのだ、と思いました。どれだけ資源が大切か、

どれだけ無駄遣いをしていたか痛感しました。こうでもならないと気付かないのかと悲しくなりました。本当に便利な時代になったのでしょうか。1つがダメになると、全てがダメになってしまう脆い時代だと私は思います。

同時に思ったことがあります。被災した地域が東北ではなかったら、こんな風に真剣に考えたかどうか、他人事に考えて自分は考えていたのではないだろうか、と。私自身、電気やガスや水道がある生活を当たり前に感じていました。ですが今回の地震でその考えが一気に変わりました。資源は無限ではなく有限です。

日本全国、節電に以前より力を入れています。電灯の数を減らした街を見ると、「今まで明るすぎたのでは？」と思いました。使わない時にコンセントを抜いておく、エアコンの設定温度は下げすぎない、誰もいない部屋の電気は消す、など1人1人ができることがあると気付きました。必要な分だけ、意識して行動すれば何か変わるかもしれません。1人の力だけでは無理かもしれないけれど、皆で取り組めば大丈夫かもしれません。地震で起きた災害は被災地だけではなく日本全体の問題だと思います。

福島県の人々は、『福島の娘とは結婚するな』なんて言われる日がくるのではないか、「子供の

健康に影響はあるのか」、「いつになったら故郷へ帰れるのか」、「また元の暮らしに戻るのか」と心配しています。

これを読んで下さった皆さんにお願いです。どうか福島県、福島に住む人々を嫌わないで下さい。放射線に怯えながらも一生懸命暮らしています。

福島県は自然豊かでも良い土地です。

今はまだ問題を抱えています。必ず復興し本来の美しい福島に戻ると信じています。その日がくるまで福島県を見捨てないで下さい。

参考

●地図

<http://www.cms.pref.fukushima.jp/>

●原子力発電所立地

<http://www.pref.fukushima.jp/nuclear/hatsudensyo/map.html>

●福島県八重洲観光交流館

<http://www.tif.ne.jp/jp/sp/yaesu/>